

前大樹町長 福原勉さん

5

あの日 あの時
～十勝ひと物語～

大樹で宇宙開発関連の実験が初めて行われたのは1992年10月でした。ロケットを開発していました。ロケット回収システムの開発を目的としたものでした。翌93年には小型ロケットによる超音速パルスジェット実験も行われました。

当時の宇宙科学研究所は、ロケットが大気圏に再突入する際に、パラシュー

トを放出して減速するシステムを開発していましたが、大樹では小型ロケットを発射、パラシュートが開く状態を地上のビデオカメラで撮影しました。実験の規模は小さかったかも知れませんが、宇宙のまちを推進する立場として大いに勇気付けられたものでした。

そんな折、宇宙科学研究所の小型飛行機「ドルニエ」の飛行実験を大樹で行いたいという要望がありました。当時は東京の調布市で行っていましたが、都会で多くの制約があると思うような実験ができません。何とか大樹で実施したいというのです。滑走路が必要でした。予算は限られており、専門家の意見も聞きながら93年、町多目的航空公園設置に着手しました。95年にオープン、幅60m、長さ1

kmの未舗装の転圧滑走路を整備しました。土ぼこりが立つなどの問題もあり、利用の高度化を図る意味で98年に舗装化に踏み切りました。結果的にこれが大成功だったと思います。一般企業や大学も実験に訪れるようになりまし

た。舗装化に理解を示してくれた町民や議会、職員らに感謝しています。マスコミにも多く取り上げてもらいました。大樹の取り組みの認知度を高めることになりましたね。

昨年5月、JAXA(独立行政法人宇宙航空研究開発機構)と連携協力協定を締結し、大気球を使った科学実

多目的航空公園の建設、整備
舗装化理解の町民らに感謝



験も実施されています。大型飛行船の格納庫や大気球管制棟なども増設されました。未舗装の時代からみるサクラの美しさに感心したものです。今後も航空公園を大いに活用してほしいと願っています。

宇都宮県立大の友人たち、私の大きな財産です。人生訓である「和を大事にしながら生きていきたい。今後こそ多様なことを大切になりたいと思います。」(聞き手・北雅貴)

この項おわり、次回は井上善さんです。

大樹町多目的航空公園
1993年、事業費1億1000万円を投じて牧草地と山林を切り開き建設。面積は36畝。独立行政法人宇宙航空研究所(JAXA)は2004年に同航空公園で「成層圏プラットフォーム定点滑空飛行実験」を行ったほか、08年からは大樹航空宇宙実験場で大気球の放球実験を展開している。

今、感謝の気持ちを込めて一緒に旅行に行ったりしています。家事も手伝いますよ。テレビで料理番組を見てメモを取ったり写真に

新穂御苑で開かれた桜を見る会で、当時の宇宙科学研究所幹部夫妻と記念撮影する福原さん(左)と則子夫人(左から2人目)

妻の則子とは職場結婚です。町の保健婦(現・保健師)でした。1女を授かり、忙しいながらも楽しい日々を送ることができました。娘は嫁いで札幌にいますが、月に1回は妻と遊びに行っています。現職時代は大変苦労を掛けました。冠婚葬祭で私が回りきれないときは代理で出席してもらいました。

収めたりしています。いろいろな人との出会いにも恵まれ、幸せな人生を歩んでいます。ミニバレーなどを通じて知り合った沖繩、東京、石川の友人たち。私の大きな財産です。

大樹町多目的航空公園
1993年、事業費1億1000万円を投じて牧草地と山林を切り開き建設。面積は36畝。独立行政法人宇宙航空研究所(JAXA)は2004年に同航空公園で「成層圏プラットフォーム定点滑空飛行実験」を行ったほか、08年からは大樹航空宇宙実験場で大気球の放球実験を展開している。